尾上の可祢由来

播州尾上の鐘といふは人皇十五代神功皇后三韓より
御凱陣の時新羅國より持かへらせ給ふ古物
の其一にしてひゞきよく世にきこえたかく名
まことに此辺は海上三里どりと響わたつく撞木綱するより
あれば後土御門院の御宇應仁二年の乱世に海賊ども盗み取りて舟と
積く
出し此沖のおもてにさしかゝる時に波あらく逆風つよく船さ
られ [illegible] 鐘を海へしづめ [illegible] のかゞへしてそ
[illegible]
それより此沖の海面より夜なく光り
りの如く [illegible]
夜毎にきこえて [illegible]
ある [illegible] 天下泰平の其頃 [illegible]
とて綱を入りて此鐘
此所のまことにかくて [illegible]
比 [illegible] の御代あり
それで漁人とも [illegible]
おのづから [illegible]
とひとさ [illegible] 尾上へ納さしむの
不思儀なるかなりてる [illegible]
自然の声と [illegible]
して [illegible] 女一 [illegible] の
寄附せくりしくい社